

狐鵲の洞

佐藤 朋子

2022.5.28|土| — 9.11|日|

[展示 8.18|木| — 9.11|日|]

長野県立美術館

本館 オープンギャラリー

入場料 観覧無料

White fox, Antigone, Centaurus

SATO Tomoko

佐藤朋子 狐・鶴・馬

公開制作は、アーティストが一定期間美術館に滞在して作品を制作し、その制作過程や完成した作品をご覧いただくプログラムです。

vol.2となる今年度は、レクチャーパフォーマンスを主体に「語り」による芸術実践を行う佐藤朋子を招へいます。

佐藤は歴史のありように関心を寄せ、複数の史実にフィクションを重ねて新たな物語をつくります。今回は、いずれも進行中である「狐・鶴・馬」にまつわるプロジェクトを取り上げ、とりわけ「狐」に主眼を置いて制作を進めます。人の近くに存在してきたという共通項をもつ動物たちにまつわるリサーチを、佐藤はいかにつなぎ合わせるのでしょうか。完成作品の上演・展示と合わせてお楽しみください。

佐藤朋子 | SATO Tomoko

1990年長野県長野市生まれ、神奈川県在住。2018年東京藝術大学大学院映像研究科メディア映像専攻修了。

レクチャーの形式を用いた「語り」の芸術実践を行っている。日本が辿った、いびつな近代化への道のりや、大文字の歴史からこぼれ落ちてしまった出来事が物語る歴史の複数性への関心と、各地に残る伝説や遺跡などへの興味から、作品を制作する。そして、史実の調査過程から浮かび上がる事柄を複眼的につなぎ合わせ、フィクションとドキュメントを行き来する物語を構築する。

主な制作に、『しろきつね、隠された歌』（2018）、『103系統のケンタウロス』（2018）、『瓦礫と塔』『ふたりの円谷』（Port B 東京修学旅行プロジェクトにて上演、2018-19）、『MINE EXPOSURES』（2019）、『TWO PRIVATE ROOMS - 往復朗読』（青柳菜摘との共作、2020-）、『オバケ東京のためのインデックス』（2021-）。



長野県立美術館 長野市箱清水1-4-4
TEL. 026-232-0052 <https://nagano.art.museum/>
9:00-17:00 水曜休館（祝日の場合は開館、翌平日休館）

| イベント |

1. レクチャーパフォーマンス

「狐」にまつわるリサーチに基づくレクチャーパフォーマンスを上演します。

日時 | 8月14日[日] 11:00- / 15:00-

会場 | 長野県立美術館 本館 交流スペース

定員 | 各回30名 要申込

2. アーティストトーク

作家の姜信子氏を迎え、佐藤の作品のベースにあるリサーチを巡り、互いの関心の重なりについて話します。

日時 | 8月中に開催予定

講師 | 姜信子(作家)、佐藤朋子

会場 | 長野県立美術館 本館 交流スペース

定員 | 30名 要申込

3. ワークショップ

「文読むスクリーン—《往復朗読》からつくる映像」

互いの朗読を映像でララーする「往復朗読」。読むものを選び、読み、読む様子を撮ることを実践します。

日時 | day1: 8月6日[土] 10:00-11:30

day2: 8月7日[日] 13:30-15:30

・2日間にわたるワークショップです

講師 | 青柳菜摘(アーティスト)、佐藤朋子

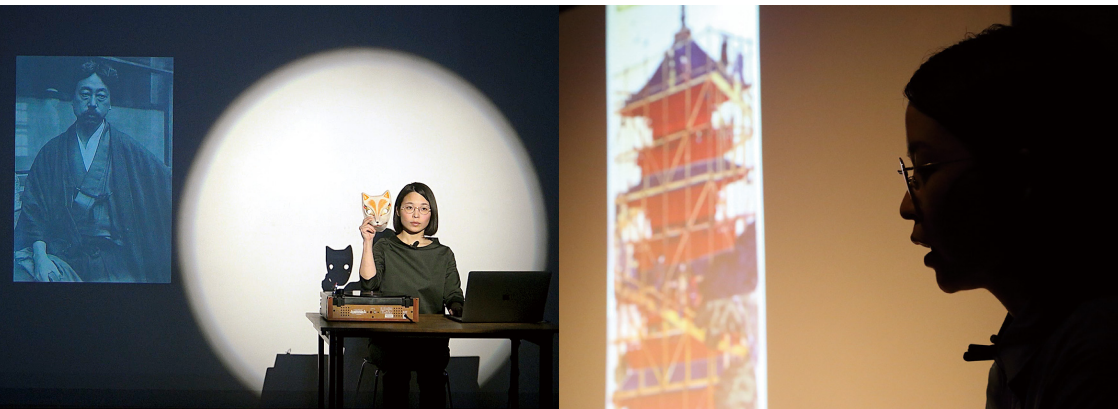
会場 | 長野県立美術館 本館 レセプションルーム

定員 | 10名 要申込

・申込方法やその他詳細は当館ホームページにてご確認ください

注意事項

- ・会期中、作家が美術館に滞在していない期間もあります。作家の滞在日は当館ホームページにてご確認ください。
- ・新型コロナウイルス感染症等、諸般の事情により予定に変更が生じる場合があります。



『しろきつね、隠された歌』2018

『瓦礫と塔』2018 ©Masahiro Hasunuma